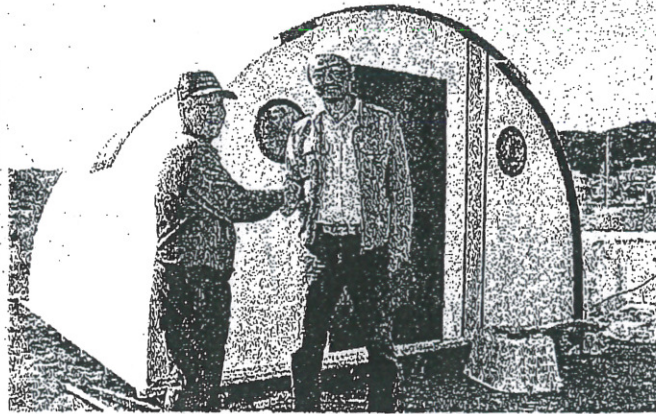


浜で重宝 簡易ドーム

神戸・材木輸入
会社の善任団体
各地に5棟提供



「ありがとう」。満面の笑みを浮かべ、木村哲哉社長（右）と握手を交わす横田徳寿さん（山田町）

本県沿岸被災地で木造仮設小屋「DIY復興ドーム」が漁業者らに重宝されている。床面積約13平方メートル、高さ約2メートルのドーム状で、作業小屋や仮設店舗にうってつけで、建設も解体も手軽にできるのが特長。神戸市の材木輸入業テツヤ・ジャパン（木村哲哉社長）のボランティア団体が各地で提供を続けている。提供を受けた山田町長崎の漁業横田徳寿さん（78）は海から約300メートルの知人所有地に建て、漁の作業小屋として使う。19日はドームに白と茶のペンキで色を塗った。

横田さんは「仮設住

宅は海から遠く、狭く決まらない中、自治体や陸前高田市など県内から建物の新築の自費で5棟を提供。木村社長「この小屋のおかげでやっと漁の準備が整って帰る」と感謝する。同社のボランティア団体はこれまで釜石市「手心えき」に支援に

簡易ドーム無償提供

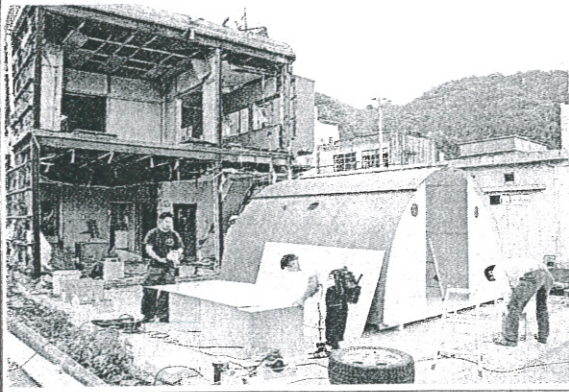
岩手、宮城すでに10棟

神戸の建業者
材木輸入

東日本大震災で津波被災部などで、神戸市垂水区「ツヤ・ジャパン」が運営するボランティア団体が、倉庫などに活用できる木造簡易ドームを無償で建設する活動が続いている。代表の木村哲哉さん35は「助成事業などを活用し、被災地への支援を続けていきたい」と意気込んでいる。

3月下旬、震災復興に役立てるため、知人の工業デザイナーと協力し、大人6人が約8時間で建てることができる「DIY復興ドーム」を開発。床面積は約13平方メートル、高さ約2メートルで、耐水性と強

津波被害に遭った商店の跡地で簡易ドームを建設する木村さんら＝岩手県釜石市浜町



度優れたロシアのシラカバ合板を使っている。岩手県陸前高田市の高田消防団の依頼を受け、消防機材の倉庫として5月に初めて建設。9月までに岩手、宮城両県で計10棟を提供した。

今年17日には、岩手県釜石市で津波被害に遭った雑貨店「十字屋商店」の店舗跡地に1棟を建てた。神戸から建材を運び、東京、横浜、大阪から参加したボランティアら計9人で完成させた。同店の佐々木ヨシ子さん70は「とてもありがたい。震災前のように、近所の住民たちが集まっておしゃべりできる場所にした」と話していた。

（斎藤雅志）

平成23年10月20日付
岩手日報



平成23年10月25日付
神戸新聞